

第14回 肉や牛乳をつくる

まとめてみよう！

解答は別冊 28ページ

1 家畜から得られるものは？

108・109
ページ

・家畜を飼って、肉、牛乳、たまごなどを生産する農業のことを という

・おもな家畜の種類

……広い土地のある や
牛乳を生産するための牛

岩手県、関東地方で多く飼われる

……北海道や 地方の南部で
肉を生産するための牛

多く飼われる

輸入された肉とさびしい競争

…… 地方の南部で多く飼われる

をとる採卵鶏 …… 地方で多く飼われる

肉をとる若鶏 …… 地方の南部で多く飼われる

2 畜産農家の一日

110ページ

・えさやり、見回り、そうじなど

・家畜を伝染病から守る

→ 出入りする人や自動車などを する

・ を飼育する農家では、毎日2～3回の乳し
ぼりを行う

3 畜産をめぐる問題と工夫

111ページ

・輸入にたよる ……とうもろこしなど

・ 用の米を国内で生産するようにする

・増える肉の輸入 ……輸入肉の方が価格がふつう い

・減る畜産農家 ……働く人の年齢が くなった

・大規模に畜産を行い、生産にかかる費用をおさえる

・高く売るために 化
生産地の名をつけるなど

…… 県の松阪牛、 県の米沢牛など



白地図に書きこもう！

○ 次の1～3の飼育数が全国で1位の都道府県を赤色で、2位の都道府県を青色でぬり分けなさい。

1 乳牛

2 肉牛

3 ぶた



- 1 日本の畜産業について述べた次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

畜産業は、家畜を飼って、牛乳・肉・Aなどを生産する農業です。広い土地があり、涼しい気候を好む乳牛の飼育に適している北海道は、乳牛の飼育数が日本一です。また、牛乳の消費量が多いB地方では、栃木県や群馬県、千葉県などで乳牛が多く飼われています。

肉には、おもに3つの種類があります。まず、長い間出荷量が最も多かったのはC肉です。Cは、Dと宮崎県で飼育数がそれぞれ1位・2位です。この10年ほどで出荷量が増え、現在最も多いのはとり肉です。肉用若鶏の飼育数は、Dと宮崎県が1位・2位です。もう1つが①牛肉です。広い牧場のある北海道の肉牛の飼育数が1位、さらに2位がD、3位が宮崎県です。

とくに牛肉では、消費者が安心して買えるよう、牛がどこで飼育され、どこで加工されたのかを、②登録番号を用いて調べることができるしくみもあります。

- 問1 Aには、にわとりから得られる畜産物があてはまります。Aにあてはまるものは何ですか。

- 問2 Bにあてはまる地方を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 中部 イ 東北 ウ 近畿 エ 関東

- 問3 Cにあてはまる家畜の名を答えなさい。

- 問4 Dにあてはまる県を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 鹿児島県 イ 熊本県 ウ 兵庫県 エ 岩手県

- 問5 下線①について、ブランド牛を育てることで、高い利益を得ようとしている地域があります。三重県で生産されている牛肉を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 松阪牛 イ 神戸ビーフ ウ 米沢牛

- 問6 下線②について、次の問いに答えなさい。

- このようなしくみは、牛肉以外でも用いられています。このしくみを何といいますか。カタカナで答えなさい。
- 牛肉の登録番号を用いて調べることでわかることとして正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 牛が生まれた日 イ 牧場で食べたえさ ウ 牛肉の料理の方法

- 2 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

60年ほど前とくらべると、日本国内で生産される肉類の量は、大きく増えました。また、①乳製品も多く食べられるようになりました。その一方で、②家畜を飼育する農家の数は減ってきています。かわって、ふたやにわとりなどを中心に、大規模な飼育を行う専門の会社が見られるようになりました。このようなしくみは、③えさやりや温度調節などを機械化して、働く人の負担を軽くすることがねらいの1つです。

- 問1 下線①について、次の問いに答えなさい。

- 1 乳製品にあてはまらないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア バター イ チーズ ウ マヨネーズ エ ヨーグルト

- 2 牛乳や乳製品をつくるために乳牛を飼うことは、畜産業のなかでもとくに何とよばれていますか。

- 問2 下線②の理由として正しくないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 農家1戸あたりの飼育数が決められていて、増やすことができないから。

イ 設備やえさに多くの費用がかかるから。

ウ 働く人の年齢が高くなっているうえ、後つぎがないから。

エ 輸入された肉や乳製品は、価格の安いものが多く、競争がきびしいから。

- 問3 下線③について、次の問いに答えなさい。

- 1 日本は、えさの多くを外国からの輸入にたよっています。とくに、栄養分の多いある作物は、毎年1500万トン以上がアメリカなどから輸入されています。この作物を次から選んで、記号で答えなさい。

ア 大豆 イ どうもろこし ウ 小麦 エ じゃがいも

- 2 家畜にあたえるえさのことをAといいます。日本国内で生産されたAを増やすために、人が食べるための米からA用の米にBした稲作農家もあります。Aにあてはまることばを答えなさい。また、Bは、ほかの作物を栽培するようにすることです。Bにあてはまることばを漢字で答えなさい。

畜産について、次の問いに答えなさい。

問1 ①の表は、乳牛、肉牛、ぶた、採卵鶏、肉用若鶏を飼育している割合の多い上位5都道府県を示したものです。表のA～Cにあてはまる都道府県の組み合わせとして正しいものを次から選んで、記号で答えなさい。

(湘南白百合学園・一部改題)

① 単位=%

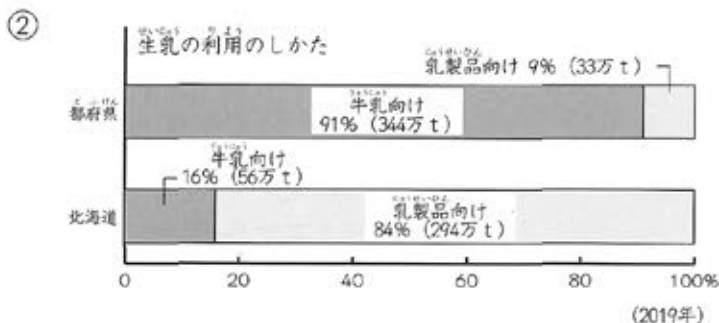
	乳牛	肉牛	ぶた	採卵鶏	肉用若鶏
1位	A 60.7	A 20.5	B 13.9	茨城県 8.3	C 20.4
2位	栃木県 3.9	B 13.3	C 9.1	千葉県 6.8	B 20.2
3位	熊本県 3.3	C 9.6	A 7.6	B 6.4	岩手県 15.7
4位	岩手県 3.1	熊本県 5.2	群馬県 6.9	岡山県 5.7	青森県 5.0
5位	群馬県 2.5	岩手県 3.6	千葉県 6.6	広島県 5.1	A 3.6

(乳牛・肉牛は2020年、ほかは2019年)

- ア A=北海道・B=宮崎県・C=鹿児島県
 イ A=北海道・B=鹿児島県・C=宮崎県
 ウ A=宮崎県・B=北海道・C=鹿児島県
 エ A=宮崎県・B=鹿児島県・C=北海道
 オ A=鹿児島県・B=北海道・C=宮崎県
 カ A=鹿児島県・B=宮崎県・C=北海道

問2 ②のグラフは、北海道とほかの都府県の生乳の利用のしかたをそれぞれ示しています。北海道では牛乳などの飲料として出荷するよりも、乳製品に加工して出荷する割合が大きいのはなぜですか。その理由を説明しなさい。

(国学院大学久我山・一部改題)



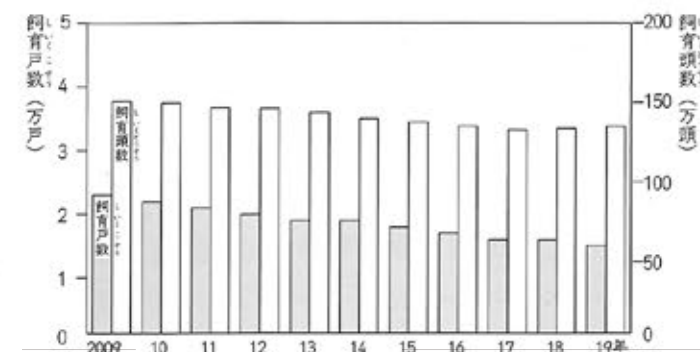
問3 下のア～ウの文が、③の表と④のグラフから正しく読みとっているものには○、あやまっているものには×とそれぞれ答えなさい。

(お茶の水女子大学附属・一部改題)

③ 生乳生産量が多い都道府県

	2019年(トン)	2009年(トン)
全 国	7,313,530	7,910,413
北海道	4,048,197	3,933,712
栃木	330,598	327,023
熊本	252,941	244,765
岩手	211,951	230,307
群馬	207,902	266,797
千葉	192,495	263,993

④ 乳牛の飼育戸数と飼育頭数の変化



ア 2009年とくらべた2019年の全国の生乳生産量は、およそ60万トン増えています。

イ 2009年とくらべた2019年の1戸あたりの乳牛の飼育頭数は、増えています。

ウ 2009年とくらべた2019年の生乳生産量が減っているのは、東京ととなり合う県のみです。

記述問題にチャレンジ!

解答と解説は別冊 29ページ

「佐賀牛」はJAグループ佐賀が決めたきまりに合格した牛肉です。ブランド化されることによってたらされるよい影響について、生産者・消費者それぞれの立場から説明しなさい。

(早稲田実業学校・一部改題)